

2021年度 芸術科「書道 I」

科目名	単位数	学年	必修・選択	対象学科
書道 I	2	1	必修選択	普通科 (健康科学・文理)

1. 科目概要および目標

- ・書における表現と鑑賞の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てる
- ・書を楽しむ態度を通して感性を豊かにし、様々な場面に対応する書写能力を高める。
- ・書の学習を通して自己を主体的に表現する能力と書の美しさを感じ取る鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。

2 成績評価

- ・提出作品、「学習記録」の記録状況、「学習のまとめ」の内容を中心に用具・用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度なども含めて総合的に評価。
- ・学期全体の評価は提出作品で 80%、「学習記録」と「学習のまとめ」で 15%、学習活動への参加の配分で行う。
- ・提出作品については、臨書においては対象となる古典の特徴を表現できたか、作品制作においては意図した表現をすることが出来たか。

提出物 (作品) 50%	ファイル点 20%	平常点・その他 30%
--------------	-----------	-------------

3. 使用教科書・教材

東京書籍 書道 I

4. 授業の展開と形態

単元の目標を把握させ、解説や指導を行い練習から清書書きをさせ自己評価・相互評価を行う。

5. 学習方法

- ・実技・・・創造的な書表現をするために基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身につけて表している。
- ・鑑賞・・・書道展入賞作品や名筆古典書をビデオで鑑賞し本物の芸術を味わう。
鑑賞することは、自らも豊かになり書写表現にもその豊かさが表れる。

6. 履修上の留意点

- ・書道の学習においてはまずよく見るのが大切です。自らの感性に基づき対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かうこと。
- ・得られた感想は何に由来するものか、用具・用材、構成、また作者や時代背景といったさまざまな要素について考え分析する姿勢が大切。
- ・技法の習得は主として古典の臨書によりますが、ただ枚数を重ねるのではなく1枚1枚、1字1字について自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習すること。そのために「学習記録」は丁寧に書くこと。
- ・作品制作においては「今自分は何を表現したいか」を第一に考え、詩文や用具・用材などを積極的に選択する。

学習の計画

月	配当 時間	单元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価方法	
4	4	書写から 書道へ	書写の確認	書写と書道の共通性と相違を理解します。 書の芸術性について理解します。	発表内容 (関)	
			■用具・用材 —文房四宝— ■用具・用材の違いによる表現	用具・用材の種類や製法を学びます。 用具・用材の性能を学び、表現の違いを理解します。	ワークシート(関)	
			姿勢・執筆	姿勢や執筆法の基本を理解します。	ワークシート(関)	
5	8	・篆刻の 学習	1篆刻について 2篆刻の用具・用材 3姓名印と文字の配列 4印稿の例 5刻る手順 6いろいろな印	篆刻が芸術作品としての対象となり書表現のひとつとして理解します。 姓名印の制作を通して篆刻の手順と技法を習得します。	ワークシート(関・鑑) 試書(構) まとめ作品(技)	
6	2	・さあ、 書こう	基本的な筆使いの確認 ■書を生活の中に生かしてみよう ■身のまわりの書	基本的な用筆・運筆を習得します。 身のまわりの生活の中でみられる書について、その意義や効果について学習します。	ワークシート(関・鑑) 作品(技) 発表(関)	
	6	・漢字の 書の学習 —楷書の 学習	■書体の変遷 1さまざまな楷書 2楷書の基本を知ろう 3軽快と重厚 4方勢と円勢 5小字の書の鑑賞と臨書	これから学習する楷書の古典を鑑賞し特徴を理解します。 楷書の基本点画の書き方を確認します。 楷書古典の臨書学習により、基本的な点画の線質の表し方、用筆法・運筆法を学びます。	ワークシート(関・鑑) 試書(構) 中間まとめ(構) まとめ作品(技)	
7	4	・半切作 品の制 作	これまで臨書した 古典から選択	半切への文字配列や字の大小、墨量の変化による表現効果について理解します。	ワークシート(関・鑑) まとめ作品(技)	
9	4	公募作品制作 <タイムス展への作品出品>				

9	3	・行書の学習	1さまざまな行書 2行書の特徴 3行書の基本を知ろう 蘭亭序の鑑賞と全臨	行書の特徴について理解します。 代表的な行書の古典を鑑賞し、作者や時代背景等に関する知的理解を経て、臨書学習で各古典の特徴を把握することにより行書の基本的な用筆法を習得します。	ワークシート(関・鑑) 試書(構) 中間まとめ(構) まとめ作品(技)
10	5		4風信帖の鑑賞と臨書 5争坐位稿の鑑賞と臨書	代表的な行書の古典を鑑賞し、作者や時代背景等に関する知的理解を経て、臨書学習で各古典の特徴を把握することにより行書の基本的な用筆法を習得します。	ワークシート(関・鑑) 試書(構) 中間まとめ(構) まとめ作品(技)
	1		漢字の書の鑑賞	教科書等の漢字作品を鑑賞し、感想を自分の言葉で表現します。	ワークシート・発表(関・鑑)
11	8	仮名の書の学習	1仮名の成立と発達 2仮名の種類	我が国独自の文字である仮名について成立過程と字源等について学び理解します。	ワークシート(関・鑑)
			3基本的な筆使い 4平仮名 5変体仮名 6連綿	平仮名を中心とした上代様仮名の筆使いに慣れ、基本的な用筆法を習得します。	ワークシート(関) 試書(構) 試書(構)
12	2		7蓬萊切の鑑賞と臨書 8高野切第三種の鑑賞と臨書 9三色紙の鑑賞と散らし書き 10全体構成の工夫 11大字による表現と鑑賞	仮名の基本的な古典の鑑賞と臨書により運筆、用筆及び散らし書きの基礎を学びます。 これまでの学習を生かし、俳句の散らし書きを行います。 教科書等の仮名作品を鑑賞し、感想を自分の言葉で表現します。	ワークシート(関) 試書(構) まとめ作品(技) ワークシート(関) 試書(構) まとめ作品(技)
			7蓬萊切の鑑賞と臨書 8高野切第三種の鑑賞と臨書 9三色紙の鑑賞と散らし書き	これまでの学習を生かし、俳句の散らし書きを行います。	ワークシート 発表(関・鑑) ワークシート(関)

		10 全体構成の工夫 11 大字による表現と鑑賞	仮名の基本的な古典の鑑賞と臨書により運筆、用筆及び散らし書きの基礎を学びます。 教科書等の仮名作品を鑑賞し、感想を自分の言葉で表現します。	試書(構) まとめ作品(技) ワークシート(関) 試書(構) まとめ作品(技) 発表(関・鑑)	
	6	公募作品制作 <書初め展への作品出品>			
1	4	漢字の書制作	1意図に応じた表現 2自分の表現を目ざして 3感動や思いを表現しよう	学習した楷書や行書の古典を題材とし、習得した技術を生かして制作を行います。 姓名印を制作作品に押印します。	ワークシート(関) 試書(構) まとめ作品(技)
2	3	漢字仮名交じりの書の学習	1意図に応じた表現 2自分の表現を目ざして① 3自分の表現を目ざして② 4名筆に学ぶ表現の工夫① 5名筆に学ぶ表現の工夫②	これまでに学習した漢字および仮名の古典の学習をもとに、その表現を応用した漢字仮名交じりの書の制作を行います。 詩文、形式、用具・用材、構成など工夫し、漢字と仮名の調和の方法を考え、自分の感性をどのように表現していくかについて考えます。	ワークシート(関) 試書(構) まとめ作品(技)
3	2	創作	6感動や思いを表現しよう 7漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞	教科書等の漢字仮名交じりの書の作品を鑑賞し、感想を自分の言葉で表現します。	ワークシート・ (関・鑑)